

ハンプや狭さくの設置など歩行者優先施策

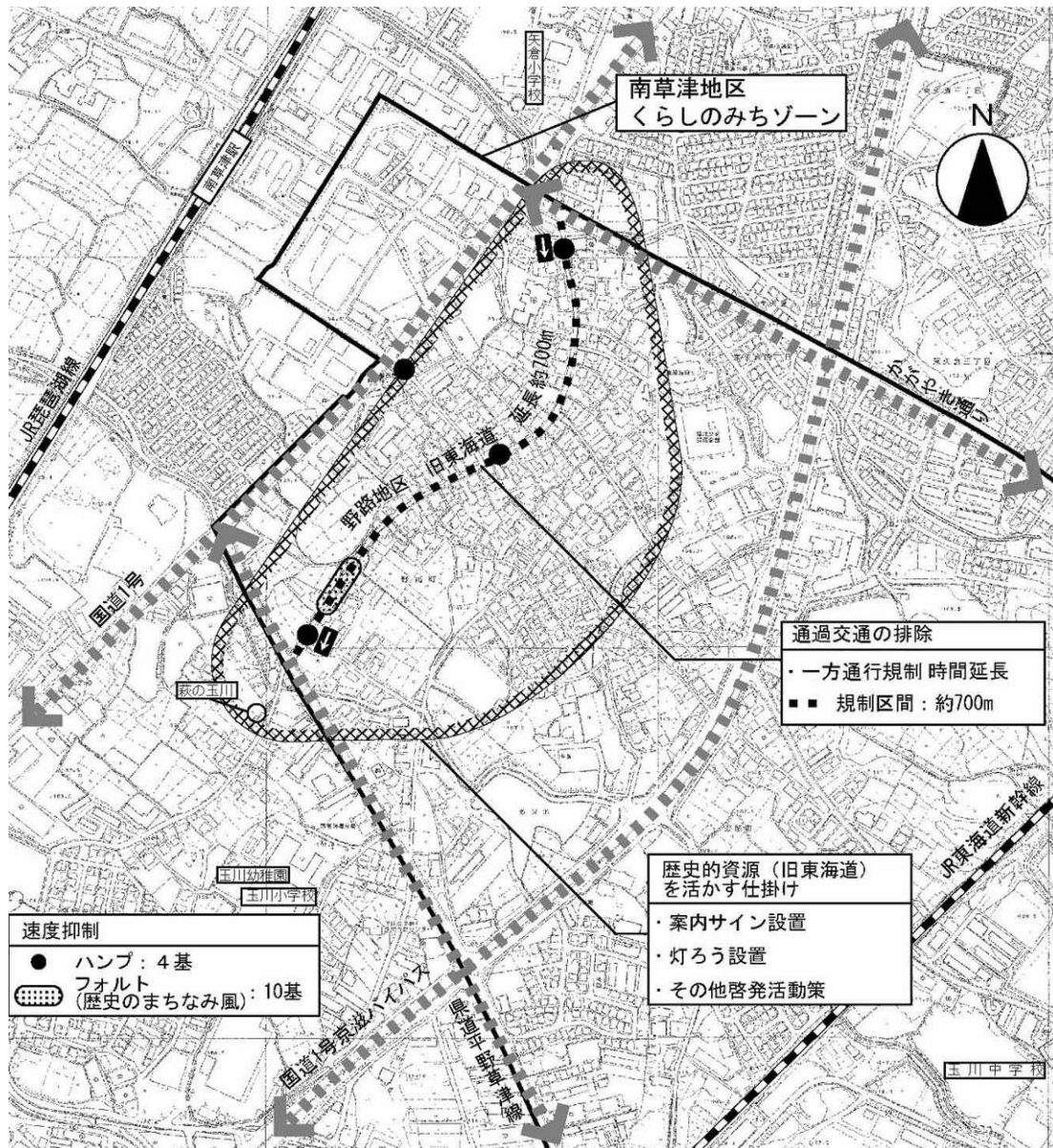
【施策の概要】

車優先の道路から歩行者優先の道路への再構築を図るため、一方通行化や歩車共存道路に加え、ハンプや狭さくの設置などに取組みます。

【代表事例】

滋賀県草津市：南草津地区くらしのみちゾーン施策の有効性検証実験

近隣の幹線道路から流入する通過交通が問題となっている草津市の生活道路において、住民にとって安全・快適な歩行環境を実現するため、一方通行規制の時間延長による通過交通排除効果の検証や、ハンプ・フォルトによる通過交通排除と速度抑制効果の検証に取り組めます。



歩道空間を活用した自転車駐車場設置など自転車利用環境向上施策

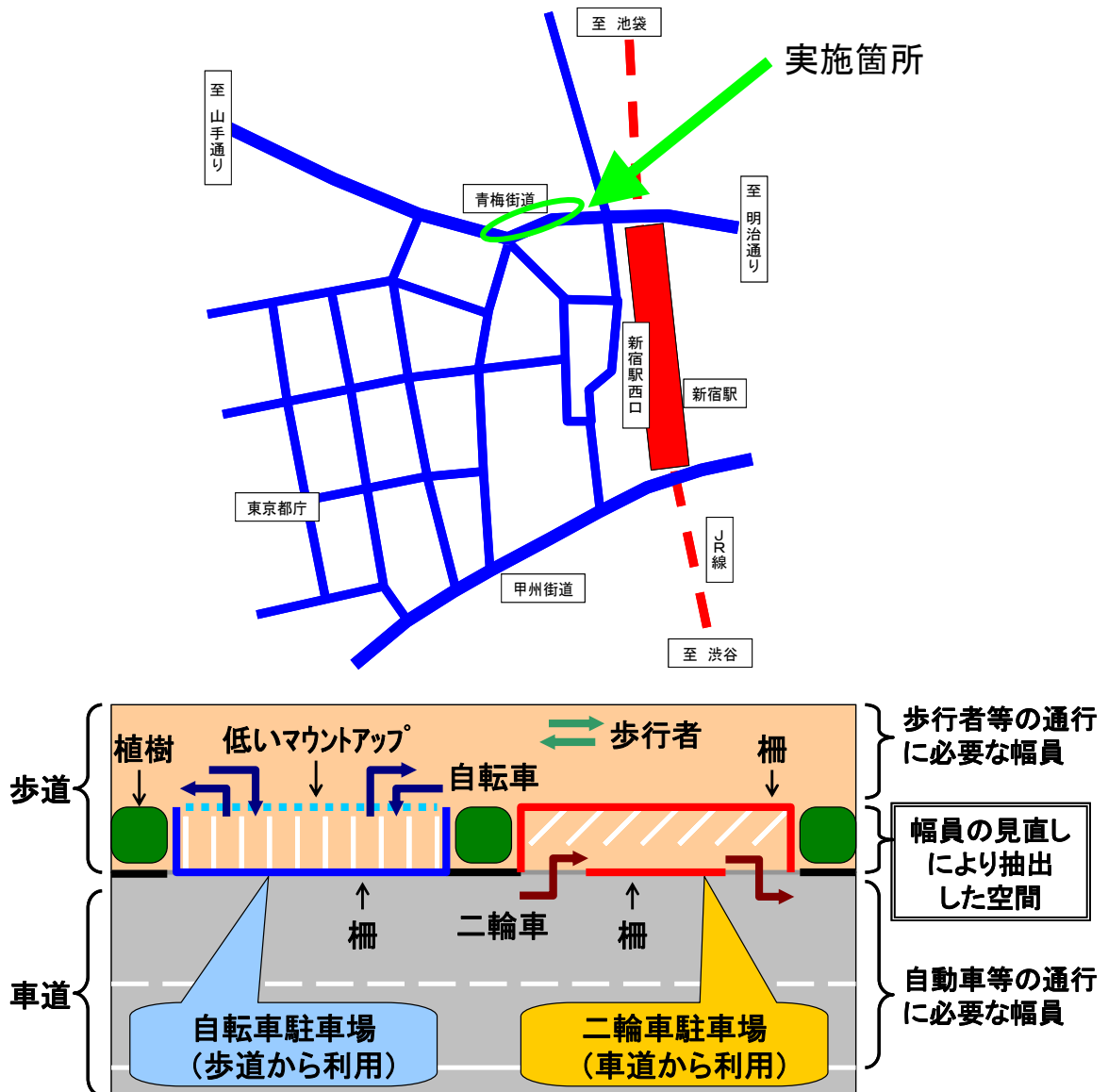
【施策の概要】

歩道上に無秩序に駐車する自転車・自動二輪車等を整序化するため、歩行者・自動車等の通行に必要な幅員を見直し、道路空間を再配分した上で、既存の道路空間を有効活用した自転車・二輪車の駐車スペースの確保・運用を試みます。

【代表事例】

東京都新宿区：道路空間の再配分による自転車等の駐車スペース確保・整序化実験

放置自転車等が1,500台を越える新宿駅（都内第3位）西口近辺の広幅員の歩道空間を活用して、自転車駐車場（歩道から乗り入れる構造）とともに、車道から乗り入れることが可能な二輪車駐車場を設置し、自転車と二輪車のすみわけ等、具体的な道路上の自転車等駐車場の整備方法を検討します。



通り名・位置番号方式による道案内システム

【施策の概要】

日本の住所表示は「街区方式」であるため、欧米の「道路方式」と比較して、観光客や外国人など地域に不慣れな人にわかりやすく案内をすることが難しい状況であるため、通り名と位置番号を組み合わせた「通り名・位置番号方式」を試験的に実施することにより、その実施効果・合意形成・効率的な案内方法などの課題を検証します。

【ねらい】

通り名と位置番号を使って、案内したい場所をうまく特定できるルールを作り、地域に不慣れな人に対して分かりやすく道案内ができるようにすること。

○ 場所を特定するルール（通り名・位置番号方式）

- ・ 通りに名称を付ける。
- ・ 通りの起点から10m単位の概ねの距離を位置番号とし、起点を背に右側に奇数番号、左側に偶数番号を表示する。

【取組みイメージ】

通り名マップ、通り名で道案内、現地標示 の3点セットで分かりやすく道案内



【代表事例】：島根県出雲市：「にぎわいと活気」を取り戻す大社町社会実験